

「100年時代を迎えた人生戦略」 第6回 堀江 重郎 先生

今号の「100年時代を迎えた人生戦略」では、本学会の理事長であり、また日本 Men's Health 医学会の理事長でもある堀江重郎先生（順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学教授）に男性医療についてのお話を伺った。インタビュアーは、女性医療の立場から、本学会理事・広報委員長の太田博明先生（藤田医科大学病院国際医療センター客員病院教授）をお願いした。話は、臨床領域にとどまらず、ホルモンと Gender gap, 社会との関わりなど多岐にわたり、メンズヘルスが超高齢社会に与えるインパクトを改めて考えさせられる対談となった。



メンズヘルスと アンチエイジング

ホルモンと健康と Gender gap

太田 今日はよろしくお願いします。今、日本では、90代を迎える方が男性では4人に1人、女性では2人に1人というデータがあります。女性は生命寿命が6年ほど男性より長いですが、健康寿命は2.7年しか長くありません。男性よりも不健康期間は3.5年も長いのです（図1）。女性医療を専門とする私たちは、健康寿命を生命寿命に限りなく近づけていくことが課題と考えています。男性はピンピンコロリで不健康期間が短いといわれています。男女の違いは性ホルモンにあります。女性ホルモンのメインはエストロゲン、男性ホルモンはテストステロンですね。関連する疾患でいえば、女性では更年期

症候群、男性では LOH 症候群で対比されます。

堀江 ヒトは胚発生の段階での基本形は女性です。Y染色体をもっていると、テストステロンを出して男性器が作られます。さらに、思春期に二次性徴が起こり、少年から大人の男性になるというような過程があります。

ホルモンについて、海外では男性ホルモン、女性ホルモンという言い方はしません。女性でもテストステロンはエストロゲンの血中濃度とワンオーダー違います。テストステロンのほうが多いのです（図2）。女性は更年期でエストロゲンが減るけれど、テストステロンは残ります。

面白いのは、男性は生物学的というよりは、社会的環境によってホルモンが減ります。日本では、男